



今回は「髄膜炎菌感染症とワクチン」のお話です。あまり聞きなれないですが、発症すると命に係わる場合もあります。

発行：そらいろこどもクリニック

髄膜炎菌感染症とは

髄膜炎菌と呼ばれる細菌を原因として引き起こされる細菌性髄膜炎、菌血症、敗血症です。人から人へ飛沫感染で移ります。日本ではあまり聞きなれないかもしれませんが、侵襲性髄膜炎菌感染症は世界では毎年30万人の患者が発生し、3万人の死亡例が出ています。

アメリカなどへ留学する場合やアフリカなどへ旅行に行く場合には注意が必要です。

髄膜炎菌感染症のリスクのある国(2014年)



症状

発症の初期は、風邪に似た症状のため診断が難しく、早期に適切な治療を受けにくい疾患です。髄膜炎菌は健康な人の鼻やのどの奥に存在していることがありますが、体力が低下している時や、免疫系の疾患がある場合には、血液や髄液に菌が侵入し、その結果、菌血症や敗血症、髄膜炎になることがあります。発症後12時間以内は発熱・頭痛・吐き気など風邪のような症状が、発症後13~20時間ごろには皮下出血や発疹が出たり、首の後ろが硬くなったり、息が苦しくなったり、光をまぶしく感じるなど普段と違った症状が起こればはじめます。そのまま放っておくと意識がなくなったり、けいれんを起こし命にかかわる状態になってしまいます。死亡率が高く10~15%で、早期に診断されて適切な治療がされても5~10%、無治療の場合は50%とされています。



髄膜炎菌とは

健康な人の鼻やのどの粘膜にも定着している細菌です。世界では5~20%、日本では0.4%程の保菌者がいると言われています。そのような人の鼻やのどの分泌物に直接触れる、あるいは咳によって放出された飛沫を吸い込むことなどにより他者へ広がります。吸入した髄膜炎菌が鼻やのどの粘膜に侵入し、やがて血流にのって髄膜まで至ると髄膜炎を引き起こします。



潜伏期間

2~4日(10日に及ぶこともある)



治療

髄膜炎菌に対して効果を期待できる抗菌薬を用いて治療します。その他に血圧の低下やけいれんなど重篤な症状が出現している場合はそれに応じて補液や昇圧剤を使用します。

予防

流行地に滞在される方は予防接種が勧められます。メッカ巡礼に際してはワクチン接種が要求されます。また、海外留学では、入学・入寮の際にワクチン接種を義務付けている場合もありますので、学校などに事前に確認してください。ワクチン接種は任意となっています。国内臨床試験は2~55歳を対象にして実施されていることから、2歳未満の小児等に対する安全性及び有効性は確立していません。ワクチンは1回0.5mlを筋肉注射で接種します。取り寄せが必要なワクチンなので、ご予約をお願いいたします。料金は22680円です。リスクの高い方に対しては3~5年後に追加接種することが推奨されています。



今月の絵本

しろいうさぎとくろいうさぎ

文・絵 ガース・ウィリアムズ
訳 松岡 享子

古くから読まれていた絵本です。しろいうさぎとくろいうさぎの結婚のお話♡絵もシックで小さいお子様には少し難しいかもしれませんが、優しい子持ちになれる絵本です。大人になってからまた読んでもらいたい1冊です。

クリニックの本棚にあるよ♪



おしらせ

インフルエンザワクチンの接種を実施しています。今年も**完全予約制**となっています。ワクチンの在庫の関係上**受診歴のあるかかりつけのお子さんのみでしたが、数に限りはありますが受診歴がある成人の方の接種も開始しました。**

接種期間は、12月いっぱいまでの予定です。ご希望の方はご予約をお願いいたします。詳細はホームページでご確認ください。

1回 3歳未満 2500円 3歳以上 3000円です。
13歳未満は3~4週あけて2回接種となっています。

